

研究授業「米づくりの広がり与生活の変化」

前期の指導主事訪問が6月15日にありました。2校時には、6年1組で社会科の研究授業を行い、縄文時代から弥生時代への移り変わりについて子どもたちが考えを深めました。



はじめに、二つの時代における「衣・食・住」の特徴を振り返り、狩りや漁で食べ物を確保するために移住していた人々が、米作りの広まりにより定住していったことを確認しました。

そして、今日の学習課題「弥生時代は、縄文時代に比べて、良い時代になったといえるだろうか」について、自分の考えを思考メーターに位置付けました。



子どもたちの意見は、中間から「良い」とする部分に偏り、その理由として、「狩りにいかななくても米がとれる」「縄文は不安定だったが、弥生は安定している」などがありました。ここで、先生がipadのエアドロップを使い、子どもたちのipadへ弥生時代の争いの場面を描いた画像を送りました。画像を見ながら「どうして争いがおこったのか」を考えました。子どもたちから、「住んでいたところの木のみが無くなったので、とりに来て喧嘩になった」「場所によって雨の降り方に違いがあるので、雨が降らず米が出来ないところの人が奪いに来た」のように、確保できる食糧の差が争いを誘発しているとの考えが出てきました。



弥生時代には争いが起こり大変そうだと認識が子どもたちに広がったところで、先生がもう1枚の資料を子どもたちのipadへ送りました。資料は、縄文時代から弥生時代の人口変遷を示すもので、一目で弥生時代に人口が増えたことが分かります。人口増加の理由を考えていくと、「米作りによって食料に余裕ができたからだろう」とまとまっていきました。



ここで、もう一度、学習課題について思考メーターに自分の考えを位置づけました。ほとんどの子が、最初より「悪い」方に印を付け、弥生時代の評価を下げました。争いというマイナス面と人口増加というプラス面を比較すると、簡単に「弥生時代が縄文時代より良くなった」と子どもたちは判断できないようです。